

2025 トヨタジュニアゴルフワールドカップ第2日

6月25日（水）：中京ゴルフ倶楽部石野コース（愛知県豊田市）

混戦模様の男子の中で、日本が前日の2位から首位を奪った。

「ここに参加した過去の（日本の）チームの中では、最強と思っています」この日、ノーボギー、ベストスコア65をマークした長崎大星は個人戦でもトップに立ち、2年ぶりの優勝に向けて自信を覗かせる。「お互いにいい意味で競争しているので、チームの雰囲気は良い」兄の長崎煌心、昨年の個人戦チャンピオン・松山茉生とともに切磋琢磨して築いてきた信頼関係が好循環を生んでいる。

それでも男子はまだまだ混戦模様だ。折り返し地点の2日目を270で終えたフランスが続ぎ、カナダ、イギリス、アメリカの3チームが首位から5打差まで迫っている。そして、デューフェンディング・チャンピオンの韓国がさらに1打差の6位。「このような選手と戦えるのは本当に嬉しい」と、個人総合首位から1打差につけているフランスのトム・デ・エリイポンは語った。残り2日となった大会の行方を予想するのは簡単ではない。

女子の方では、日本とタイが他のチームを大きくリード。ただ両国の間は少しずつ縮まっている。ファーストラウンドを終え5打差あった日本とタイの差は3打差にまで縮まった。

前日2位のクリチャンヤ・カオパッタナスクルはこの日73とスコアを落としたが、ピンピサ・ルブロンが初日の75から66と見事なカムバックを果たし、プリム・プラクナコーンが70をマークした。「昨日はショットが良かったけど、パットが入らなかった」というルブロンは前日の雨から一転、晴天のコンディションに見事にアジャスト。昨年、個人3位タイの実力を発揮した。

全選手がホールアウトした直後に、豪雨に見舞われた中京ゴルフ倶楽部石野コース。第3日は午前中が曇り、午後からは雨予報で高い湿度が選手を悩ませるだろう。ゴルフは自然との戦い。厳しいコンディションを乗り越え、未来を担うジュニアゴルファーが紡ぎ出すフィナーレを楽しみに待ちたい。